

はとの子だより



No.3 令和5年4月28日(金)発行

学校教育目標 自律 のびのび きびきび わくわく

好きなことを好きなだけ



タブレットと紙皿を前に、いつもより少し真剣な表情で、5年生が絵を描いたり折り紙を折ったりしていました。

紙皿には、1年生の名前が書いてあります。漫画のキャラクターや恐竜など、様々な素材をタブレットで調べ、少しでも手元が狂うと紙皿が破れてしまうとでも信じ込んでいるかのような慎重さで絵を描き写していたので、うかつに声を掛けられませんでした。折り紙の折り方を動画で調べながら、動物を作っている子どもも同様です。

作業中の子どもたちのつぶやきから、5年生が作っているのは、「手をつなごう仲間集会」で1年生に渡す贈り物だと判明しました。漫画やキャラクター、折り紙の動物たちは、どのようにして決定されたのでしょうか。これも、ある子が「私が担当する1年生が休んでしまって、まだ好きなものを聞いてないんだよね。困ったなあ」というつぶやきから、相手の1年生が好きなものを、インタビューで聞き取って決めたことが分かりました。

さて、「手をつなごう仲間集会」当日、わくわく班の子どもたちが各教室に集まりました。自己紹介のコーナーでは、司会の6年生が「好きなものとか得意なこととか、何でも話してください」と言いました。緊張した1年生が、普段は言えるはずの好きなことや好きなものがなかなか言えずモジモジしていると、6年生が小さな声で、1年生の目線におりながら、「食べ物とかキャラクターとか、何でもいいんだよ」と優しく声を掛けました。



ここ数日、このような場面を見るにつけ、相手も場所もはばかりことなく、好きなものを「好き」と言える自由があることの素晴らしさをかみしめています。

昨年度まで、好きなことや好きなものを我慢しなければならないことが、たくさんありました。ようやくその苦しみから開放されるときが来たのだと、アリーナいっぱい広がってじゃんけん列車に熱狂する子どもたちを見ながら実感しています。





4年生では、ライティング・ワークショップという新しい試みが始まっています。週2時間、様々なジャンル、様々な題材で、長期的な見通しをもって作文を書くことを通して、文章を書く力を磨く学習です。最初の話題は、「自分の好きなもの・こと」です。

この学習でも、「自分の好きなことがどのくらい好きなのか」「どこが好きなのか」などについて、読み手に伝わるようにするための苦労を味わっていました。中には、おばあちゃんが好きな郷ひろみが好きになったという4年生がいて興味深かったです。ちなみにその

子は、郷ひろみの魅力を余すことなく書き切っていました。きっと、普段からおばあちゃんとその魅力について語り合っていたのではないかと思います。自分の好きなこと、関心があることについて、対話する相手がいることの強みを実感しました。

4年生のライティング・ワークショップの時間は、学級の仲間がよき対話相手、聞き手になります。仲間の作文を読んで、少しでも詳しく知りたいことがあったら、質問をします。先生は「質問されたということは、そこをもっと詳しく書くチャンスをもたらしたということ」と教えていました。すると、次第に作文の内容が豊かに、生き生きとし始めます。



自分の好きなことを、好きな場所で、好きなペースで書くことができる。選択と判断が子どもに委ねられている。コロナ禍で、自宅学習の機会がたくさんあった頃、学習における多くの選択や判断が子どもに委ねられた場合もありました。

みんな一斉に同じことをする「同期型」が多い学校での学びに、コロナ禍での自宅学習や、4年生のライティング・ワークショップのような「非同期型」の学びの機会が増やせたら……。好きなことを、好きなだけ、好きな時間枠で活動できる自由がある「非同期型」の学びが、子どもたちの可能性をひらくのではないかと期待しています。4年生以外にも、国語の授業以外でも、「非同期型」の学びが、様々なかたちで広がることを展望した4月でした。

全校PTAへのご参加、ありがとうございました



4年ぶりに、全校一斉に授業参観、PTA総会や学年・学級懇談を行うことができました。ご参加くださったたくさんの皆様、ありがとうございました。コロナ対応時の習慣からか、教室にお入りにならず、オープンスペースで授業を参観されている保護者の方々が多かったように感じました。今後は、いつでも、どこでもご参観くださって構いません。

これからも、本校の教育活動のよき相談役、応援団として、いつでも遠慮なくご来校ください。